

第5回 首都直下地震時等の 災害ボランティア活動 2020 連携ワークショップ 報告書

平成 26 年度より実施している「首都直下地震時の災害ボランティア活動連携訓練」について、2019 年度は名称を「連携訓練」から「連携ワークショップ」に変え、東京湾北部地震の3か月後を対象として実施しました。また、参加対象者もこれまでから変更し、生活協同組合や労働組合、青年会議所、NPO・ボランティアグループの方々に参加頂き、災害時や平時から互いに連携できる可能性を探りました。

日 時	2020 年 2 月 4 日（火）09：50～17：30
会 場	SDA 原宿クリスチャンセンター（〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1丁目11-1）
参加者	合計：112名 ①プレイヤー参加 35人 生活協同組合の役職員、ボランティアグループ、NPOのスタッフ、大学ボランティアセンター職員、青年会議所LOM理事長、産業別・企業別労働組合組合員などが参加。 ②見学参加 56人 NPO、NGO職員、都内ボランティアセンター職員、生活協同組合役職員、青年会議所メンバー、労働団体職員・組合員、専門家団体などが参加。 ③その他（講師者、パネリスト、登壇者、WGメンバー、事務局） 21名
主 催	東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議
協 力	セブンスデー・アドベンチスト教会／ADRA Japan

開会挨拶 連合東京 真島明美 氏



プログラム 1

- プログラム1では、本ワークショップの目的について共有するとともに、主催団体である「東京都災害ボランティアセンターアクションプラン推進会議」について、首都大学東京の市古先生より説明がありました。
- また、市古先生からは、台風15号・19号で立ち上がった東京都災害ボランティアセンターの概要や取組みについてもお話がありました。



メイン会場のアドベンチスト協会の礼拝堂

プログラム 2 「事例報告・パネルディスカッション」

プログラム2では、「各団体・組織のミッションにおける災害時の支援の悩み・考え方」と題した事例報告・パネルディスカッションを行いました。

- コーディネーター 首都大学東京 教授 市古太郎 氏
- パネリスト ADRA Japan 橋本竹子 氏、小出一博 氏
茨城県生活協同組合連合会 古山均 氏
大島社会福祉協議会 鈴木祐介 氏



<概要>

- ・ADRA Japan の橋本さんと小出さんからは、台風 15 号で被災した千葉への支援について報告がありました。特に屋根被害という応急対応に専門性が必要な現場での、様々な団体との連携の重要性について参加者に訴えかけました。
- ・続いて、茨城県生活協同組合連合会の古山さんからは東日本大震災や常総市での水害、今回の台風 19 号にて茨城県内で様々な団体と連携して取り組んだ状況が報告されました。特に、婦人会や農業協同組合、社会福祉協議会や NPO センターとの具体的な連携事例をお話し頂きました。生協が被災者支援を行う意義として「地域が元気にならないと生協は元気にならない」「連携することで活動に幅と深みが生み出され楽しくなる、地域社会への貢献が大きくなる」ことを強調されました。
- ・大島社会福祉協議会の鈴木さんからは「準備はあまりしてなかったが、普段の要配慮者支援だけでなく災害 VC を設置して一般の島民への支援を行うことについて、特に職員から反対する声はなかった。職員自身も島民であり、被害の状況がリアルに感じられたからではないか。ただ、社協だけで災害 VC の運営は難しかった。多くの団体との連携により、幅広い支援が可能になる」と話しました。
- ・コーディネーターの市古先生は、3 団体の取組みを踏まえたうえで、台風 19 号で被災したいわき市でサロンによる支援を行った経験から、サロンを行うことで多様な団体との連携が促進されること、具体的なプログラムを提案しながら多様な団体が連携できるのりしろをどう作っていくかが課題という点についてコメントがありました。

プログラム 3

◆ワーク 1 (被害想定ワーク)

ワーク 1 では、プレイヤー参加者がグループに分かれ、東京湾北部地震が発生した際の被害想定を東京都域の地図に記載するワークを行いました。地図に記載した内容は次の通りです。

- ①大規模地震時に交通規制がかかる道路／規制がかからない道路
- ②全壊・焼失が激しい地域
- ③参加者の活動拠点となる場所

◆ワーク 2 (プログラム連携ワーク)

ワーク 2 では

- ①様々な団体と情報共有を図ることで、被災地の課題解決につながる
- ②支援プログラムの実施に至るまでのプロセスを把握、イメージする
- ③連携・協働の大切さ。自分たちなりの対応策を考えるの 3 つを目標にワークショップを行いました。



ワーク 1 で地図に被害を落としている様子

ワークの設定は首都直下地震から 3 か月後。3 か月後の被害状況とその時期に発生する避難所や指定外避難所、在宅避難者の課題や支援プログラムの種類（サロン、足湯、炊き出し、物資配布等）を学んだのち、ワークを実施しました。

ワークでは、グループごとに「炊き出し」や「場づくりサロン」「物資・情報を届ける」といった支援プログラムを行うことを想定し、グループ内の参加者・団体の特性や資源を活かして、各団体でできることを出し合いました。例えば、「炊き出し」プログラムでは、子ども食堂の団体から「場所を提供できる」、労働組合から「炊き出しの案内チラシをポスティングできる」、生協から「物品の支援ができる」といった意見が交わされました。



ワークショップ模造紙



ワーク結果を発表している様子

◆ワーク3（平時の連携ワーク）

ワーク3では、平時の連携について考えるワークを行いました。ワーク2を行う中で出てきた団体や個人のキーパーソンと平時から連携できること、また、他に連携を考えられる団体について意見交換を行いました。

見学プログラム

見学者は全体で56名となりました。見学者はプレイヤーが実施する訓練内容を見るか、講義・意見交換に参加するか自由に選べる方式にしました。見学プログラムの具体的な内容は次の通りです。

No	内容	講師／説明者
1	見学者オリエンテーション	ダイナックス都市環境研究所 津賀氏
2	行政・NPO・ボランティアの三者連携について	内閣府 防災担当 石垣氏
3	台風15号・19号東京都災害VCの取組みと今後の課題について	JVOAD 神元氏、TVAC 長谷部氏
4	JCや労働組合の災害時の取組みや防災・減災活動について	青年会議所 飯島大地氏 連合東京 真島明美氏
5	見学者意見交換タイム	—



内閣府防災担当 石垣氏



青年会議所 飯島氏（右）
左は、WG サポーターの津賀氏

講評

茨城 NPO センター・ commonsの横田さんと、減災と男女共同参画研修推進センターの浅野さんからワークショップの講評をいただきました。講評の概要は以下の通り。

【横田さん】

横田さんからは2015年と2019年台風19号での水害の経験から今回のワークショップの評価を頂きました。プログラム1・2では、組織間連携の話と被災地でのボランティア活動との話のつながりが分かる

となお良かったと評価した上で「サロンの意義の確認ができたことでプログラム3での議論が活発になった」と話しました。また、被害想定ワークでは「地図に地震被害の状況を落としたが、グループによっては水害をイメージしたり、議論の中身に幅が出た」と評価しました。続くプログラム連携ワークは「何のための支援プログラムなのか考えることが大事。自分たちができることから連携を考えることも重要だが、被災者にとって本当に参加しやすい活動になっているか、という視点も忘れてはいけない」とコメントを頂きました。



茨城 NPO センター・コモンズ 横田氏

【浅野さん】

浅野さんには、これまでの連携訓練に企画側に関わってきた立場からワークショップの評価を頂きました。プログラム1・2については、解説や事例の内容が良く、被災者支援に対する参加者の理解が深まった一方、多様な人が参加しているからこそ協同組合や社会福祉協議会など各組織の説明がもう少し必要だったという指摘がありました。また、プログラム3については、多様な人が参加し議論が深められた点でとても良いワークだったが、都内のみに目がいつてしまったところがあるので都外にも被害が出ることについて共有できると良いこと、自ら支援にアプローチできない人の存在について言及があると良いこと、また、平時の連携については議論が十分深められなかったことについて指摘がありました。



減災と男女共同参画研修推進センター浅野氏

閉会挨拶 日本青年会議所関東地区東京ブロック協議会 花沢健太郎 氏



～ ワークショップ参加者の声 ～

<プレイヤー参加者の声>

- ・団体が複数集まることで、1団体ではムリなことでもできると思えた。
- ・6人でも意思疎通が難しかった。初めて会った人達なので災害時前のコミュニケーションが重要な事を感じた。
- ・自助・共助の取組みについては目を向けていましたが、平時の他機関との連携の重要性に気づくことができました。
- ・日々の連携についてあらためて重要性を感じました。今後より良い活動をする為にも多くの団体連携していきたい。また色々なワークショップなどイベントに参加していきたいと思いました。
- ・都域で1つではなく、地区ごとに展開を広げていってほしい。そうすると連携の話ももっと具体的にできると思う。

<見学参加者の声>

- ・団体同士の連携の大切さは分かった。それぞれの持ち味を活かせるよう平時から区内団体と関わってきたい。
- ・プレイヤーと見学者とをネット中継的につないで、今どんな議論がされているか共有できるとよいと思いました。
- ・次回はプレイヤーとして参加して、さらに理解を深めていきたい。

◆企画・運営 訓練ワーキング・グループ（ワーキングメンバーは下記の通り）

ピースポート災害支援センター 辛嶋友香里／シャンティ国際ボランティア会 関尚士・渡邊珠人／AAR Japan[難民を助ける会] 高木卓美／東京災害ボランティアネットワーク 福田信章／東京都生活協同組合連合会 富岡誠／かつしかボランティア・地域貢献活動センター 亀川悠太郎／首都大学東京 市古太郎／ADRA Japan 橋本笙子／真如苑 SeRV 河野吉紀／全国災害ボランティア支援団体ネットワーク 小竹琴

【問合せ】東京都災害ボランティアセンター アクションプラン推進会議（事務局）東京ボランティア・市民活動センター

電話 03-3235-1171 Mail saigai@tvac.or.jp

※この訓練は、東京都共同募金会の助成金により実施しました。